

医療系大学間共用試験の特色

○仁田 善雄, 齋藤 宣彦, 石田 達樹,
島谷 一芳, 江藤 一洋
(医療系大学間共用試験実施評価機構)

本日お話しすること

- 共用試験の概要
- 共用試験CBTの特色
 - アイテムバンク
 - 項目作成
 - 試験実施
 - 試験方式
 - 成績などのフィードバック
- まとめ

共用試験の概要

参加大学が

会員

試験問題(項目)を作成

試験を実施

- ◆試験問題(項目)作成者と異なる人による項目評価・成績評価
- ◆Peer review
- ◆モデル・コア・カリキュラムに基づく試験

試験の内容

CBT

Computer Based Testing

知識の総合的理解力



OSCE

Objective Structured Clinical Examination

基本的診療技能・態度

目的: 臨床実習開始前の到達度評価

臨床実習において必要となる知識, 技能, 態度を評価

共用試験CBTの特色

1

アイテムバンク

2

項目作成

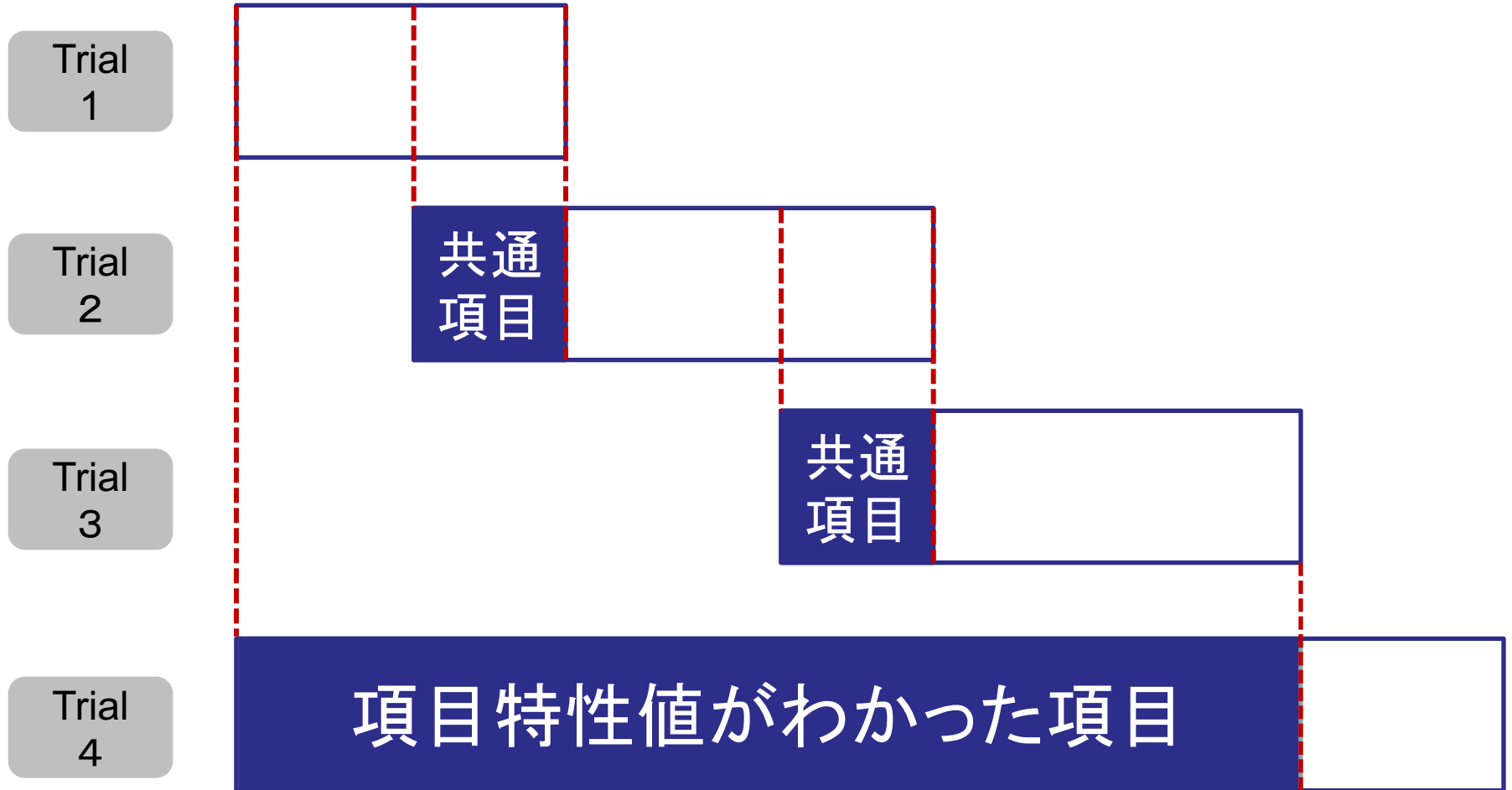
3

試験方式

4

成績などのフィードバック

トライアルのテストデザイン



新作項目とアイテムバンク

アイテムバンク

2006年

アイテムバンク抽出項目

新作

2007年

アイテムバンク抽出項目

新作

2008年

アイテムバンク抽出項目

新作



アイテムバンクのまとめ

- アイテムバンクを作成し、それに基づき出題
- 毎年参加大学の教員が多くの試験項目を作成することから、他の試験に比べると新作の項目数が多く、良質のアイテムバンクの構築と多数の新陳代謝が可能
- 新作項目の評価にはトライアルを4年間実施し、十分な項目数を確保
- 本試験ではアイテムバンクから抽出した項目と新作項目を同時に出题して新作項目の項目特性値の評価を行う

共用試験CBTの特色

1

アイテムバンク

2

項目作成

3

試験方式

4

成績などのフィードバック

共用試験の項目作成における基本的特色

- 参加大学の教員による項目作成
- 毎年異なる領域の作問の依頼
 - 作問者は該当する領域を専門とする教員
- 教員の異動が多い(毎年新たな作問者が参加)



- 項目作成のためのルール作りと毎年の講習会が必要

項目作成の流れ(機構)

- 作問マニュアルと項目作成のためのツールを各大学に配布し、項目作成の依頼
- 項目作成講習会(大学独自のブラッシュアップのやり方の説明も含む)の開催
- 大学から要望があれば、項目作成のワークショップの講師派遣(歯学系)の実施
- 参加大学が作成した項目について、機構での集中ブラッシュアップ
(グループ作業:参加大学から選ばれた委員)

項目作成の流れ(参加大学)

- 機構の講習会后，学内での作問のための説明会の開催
(ツールの操作説明とマニュアルの内容説明等)
- 領域別に各教員に作問依頼を行う
- 作成された項目のブラッシュアップ(少人数による評価)
- ブラッシュアップした項目を機構に送る
- 集中ブラッシュアップのための委員の派遣

作成された項目が出題されるまで

- 試行項目として出題された後，採点対象として妥当であるかどうかについて統計値等を参照して検討がなされる。
- 継続的に項目評価を行い，内容が適切でなくなった問題，医療技術の進歩による陳腐化した項目，法律の改定により成立しない項目などを削除して常に適切なアイテムバンクを維持し、そのアイテムバンクから出題されるように新陳代謝をはかっている。
- 一つ一つの項目に多くの教員が関与する。

共用試験CBTの特色

1

アイテムバンク

2

項目作成

3

試験方式

4

成績などのフィードバック

試験実施：試験の流れ

大学

機構

CBT実施

- ・ 学内のサーバーにインストール
- ・ 外部と遮断されたネットワークで実施
- ・ 解答データを収集

試験システム用プログラム

試験結果を郵送

解答処理, 個人成績表等作成

学内でのフィードバック

解析結果をフィードバック

試験実施:環境

- 試験会場の決定
- 設営
- システムの事前検証
- 試験監督
- 運用の実施

◆いずれも参加大学が実施する。→大学により試験環境やコンピュータシステムが異なるため、システムの対応に費用が発生する

試験実施：試験システムの事前確認ツール

試験システムの動作確認用のツールの配布

- ・各大学のネットワークシステムの動作を事前に検証する

試験システムの事前体験可能なツールの配布

- 受験生に試験システムの事前体験してもらう
- 同時に大学の試験運営のトライアルにもなる
- 受験者と実施主体の両方に十分な事前体験が可能となる

試験実施：モニター制度

- 試験の信頼性の観点から各大学に他大学の教員・機構の委員をモニターとして派遣
- 試験の実施状況を把握し，試験が問題なく実施されたかどうかを判断

モニター



試験方式

臨床実習開始時期が大学により異なる

同一時期での単一フォームの試験が不可能

受験生ごとに異なるフォーム(問題セット)で実施

◆再試験も行うため、同一個人に異なる問題セットが出題されるようにシステム制御を行っている

◆項目反応理論を用いて、項目評価、成績評価を行っている。

共用試験CBTの特色

1

アイテムバンク

2

項目作成

3

試験方式

4

成績などのフィードバック

成績などのフィードバック

<参加大学>

- 成績返却
- 試験データの解析結果の提供
- テスト理論について専門家による講演会開催
- テスト理論の説明文書・用語説明・パンフレットの提供

<受験生>

- 個人成績表の提供
- 試験全体の成績などを網羅した冊子の提供

まとめ

- 共用試験は、会員である参加大学の多くの教員の努力により成り立っている。
お互いに評価し合い、良好な試験にするために改善を繰り返している。
今後、教員の負担軽減も含めたより精度の高い適切な試験を展開していくことが検討されている。